

教科	科目	単位数	対象学年
地歴	歴史総合	2	4年

1. 学習の到達目標等

到達目標	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中における日本を広く相互的な視野から捉え、資料を活用しながら歴史の学び方を習得し、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察、構想する力を養う。
目標を達成するための留意点	年表、地図その他の資料の活用を通して世界の歴史の理解を図り、思考力・判断力・表現力等の育成を育んでいく。また世界の歴史の理解を踏まえて、現代の課題を政治・経済・社会・文化・生活・宗教など様々な観点から考察できる力を育んでいく。世界の構造や成り立ちを歴史的視野から考察し、自己の属する国や地域の理解の上に、国際社会で主体的に生き、平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民としての自覚と資質、態度を養う。
使用教科書	現代の歴史総合 みる・読みとく・考える（山川出版社）
使用副教材	現代の歴史総合みる・読みとく・考えるノート（山川出版社）
評価基準	知識・理解／思考力・判断力・表現力／主体的に学習に取り組む態度 それぞれの項目に関して、授業・定期考査・課題等を通して総合的に評価する。
学習内容	第Ⅰ部 近代化と私たち 第1章 結びつく世界と日本の開国 1 18世紀の東アジアにおける社会と経済 2 貿易が結んだ世界と日本 3 産業革命 4 中国の開港と日本の開国 第2章 国民国家と明治維新 1 市民革命 2 国民国家とナショナリズム 3 明治維新 4 日本の産業革命 5 帝国主義 6 変容する東アジアの国際秩序 7 日露戦争と東アジアの変動 第Ⅱ部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第3章 総力戦と社会運動 1 第一次世界大戦の展開 2 ソヴィエト連邦とアメリカ合衆国の台頭 3 ヴェルサイユ体制とワシントン体制 4 世界経済の変容と日本 5 アジアのナショナリズム 6 大衆の政治参加 7 消費社会と大衆文化 第4章 経済危機と第二次世界大戦 1 世界恐慌の時代 2 ファシズムの伸長と共産主義 3 日中戦争への道 4 第二次世界大戦の展開 5 第二次世界大戦下の社会 6 国際連合と国際経済体制 7 占領と戦後革命 8 冷戦の始まりと東アジア諸国の動向 9 日本の独立と日米安全保障条約 第Ⅲ部 グローバル化と私たち 第5章 冷戦と世界経済 1 冷戦下の地域紛争と脱植民地化 2 東西両陣営の動向と1960年代の社会 3 軍拡競争から緊張緩和へ 4 地域連携の形成と展開 5 計画経済とその波及 6 日本の高度経済成長 7 アジアのなかの戦後日本 第6章 世界秩序の変容と日本 1 石油危機 2 アジア諸地域の経済発展 3 市場開放と経済の自由化

	4 情報技術革命とグローバル化	5 冷戦の終結とソ連の崩壊
	6 現代の東アジア	7 東南アジア・アフリカ・ラテンアメリカの民主化
	8 地域統合の拡大と変容	9 地域紛争と国際社会
		10 現代と私たち

2. 指導計画

[illegible]

[illegible]

教科	科目	単位数	対象学年
理科	物理基礎	2	4年

1. 学習の到達目標等

到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら目的意識をもって観察、実験などを行い、自然を探究する能力と態度を身につけるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。
目標を達成するための留意点	学習のアドバイス等 1 日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち、その法則性について考える態度をもつこと。 2 疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。 3 演習を通じて、学習内容を確認し、思考力や応用力を養うこと。
使用教科書	「考える物理基礎」(啓林館)
使用副教材	「センサー 物理基礎」(啓林館)
評価基準	*主体的に学習に取り組む態度 *思考・判断・表現 *知識・技能 の3つの観点をもとに総合的に評価する。
学習内容	第2部「熱」、第3部「波」、第4部「電気と磁気」、第5部「物理と私たちの生活」の各部において、物理現象を観察、実験などを通して探究し、それらの基本的な概念や法則を理解し、物理現象とエネルギーについての基礎的な見方や考え方を身につける。

2. 指導計画

		4月	5月		6月		7月	8月	9月	10月		11月		12月	1月	2月		3月
熱	熱とエネルギー			1		1					2		2					
波	波の性質			学		学					学		学				学	
	音			期		期					期		期				年	
電気と磁気	静電気と電流			中		中					中		中				末	
	交流と電磁波			間		間					間		間				考	
物理と私たちの生活	エネルギーとその利用			考		考					考		考				査	
	物理学が拓く世界			査		査					査		査					

教科	科目	単位数	対象学年
理科	生物基礎	2	4 年

1. 学習の到達目標等

到達目標	生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。
目標を達成するための留意点	受動的な姿勢で教えを待つのではなく、能動的に理解しようとする姿勢を意識させる。 演習を通じて、学習内容を確認し、思考力や応用力を養う。
使用教科書	「生物基礎」(東京書籍)
使用副教材	「リードα 生物基礎」(数研出版)
評価基準	＊主体的に学習に取り組む態度 ＊思考・判断・表現 ＊知識・技能 の3つの観点をもとに総合的に評価する。
学習内容	1 編：生物の特徴 1 章：生物の多様性と共通性 2 章：生物とエネルギー 2 編：遺伝子とそのはたらき 1 章：遺伝情報と DNA 2 章：遺伝情報とタンパク質 3 編：ヒトの体の調節 1 章：体内環境と情報伝達 2 章：免疫のはたらき 4 編：生物の多様性と生態系 1 章：植生と遷移

2. 指導計画

		4月	5月		6月		7月	8月	9月	10月		11月		12月	1月	2月		3月
生物の特徴	生物の多様性と共通性			1 学期 中間 考 査	1 学期 期 末 考 査						2 学期 中 間 考 査	2 学期 期 末 考 査					学 年 末 考 査	
	生物とエネルギー																	
遺伝子とそのはたらき	遺伝情報と DNA																	
	遺伝情報とタンパク質																	
ヒトの体の調節	体内環境と情報伝達																	
	免疫のはたらき																	
生物の多様性と生態系	植生と遷移																	
	生態系と生物の多様性																	

